

もっとも、従来からみれば、上記の点は評価できる。
 今後は更にそうした方向の研究の多くなることが望ま

れるのである。

(梅本堯夫・福沢周亮)

学 習 (559~566)

- 座長 杉 村 健・岸 俊彦
- 559 幼児の言語習得過程における訓練効果の影響に
 関する研究 (II)
 東京教育大学 伊 藤 み ね
- 560 幼児における文字の読み学習
 奈良教育大学 杉 村 健
- 561 ひらがな文字の形と音韻の混同
 お茶の水女子大学 松 倉 信 濃
- 562 園児に対するひらがな文字の一斉指導法
 近畿大学幼児教育研究所 浜 崎 幸 夫
 “ 登 根 健之助
- 563 幼児におけるたし算の方略
 慶応義塾大学 吉 村 たづ子
- 564 分数概念の形成について
 東京都立教育研究所 岸 俊彦
- 565 (発表取り消し)
- 566 子供による系列リストでの物語文構成の効果に
 ついて
 京都大学 多 鹿 秀 継

I 発表と討論の経過

1. 発表の要点

559

文の本質的な手がかり(助詞)に注意を向けさせる
 ような訓練の効果が認められた。

560

文字の読み学習は、文字だけを示した方が文字と絵
 を示した場合よりも容易であった。

561

ひらがなの読みで、類似した形や類似した音韻の文
 字は混同されやすいことが示された。

562

ひらがなの書き学習において、湧出法が線画法より
 も有効であることがわかった。

563

幼児のたし算の方略には、かぞえたし型、自己流基
 本型、10進型などがあつた。

564

小数と分数とは異なる学習過程であるので、子ども
 に理解されやすい小数を先に教えた方がよい。

565 (発表取り消し)

566

系列学習で、全項目をつなぐ文を作らせる群の再生
 が最もよく、半分の項目をつなぐ文を作らせる群が最
 も悪かった。

2. 質問、意見の要点

559

立木(東北大):本質的なルールの習得をみるのには
 転移テストをすればよい。杉村(奈教大)ここの手続
 きではイエス・ノーというだけで訓練効果とはいえな
 いのではないか。表現能力と理解力が接近していくと
 いう傾向がない。この実験からルール学習の能力を潜
 在的に所有しているといえるか。

伊藤(東教大)ポストテストの結果が、プリテスト
 より効果があるので、訓練効果といえるのではないか。
 この実験では、動詞が使えなかった。

560

立木:漢字で侵入が多いと報告されたが、その理由
 は、漢字の方が修得されやすいと考えた方がよい。

荒木(宮崎大):漢字の中で象形文字とそうでないも
 のについて、かかわりあいはないか。杉村:今回は考
 えていない。荒木:子どもに覚え易いことばと、覚え
 にくいことばがあるのではないか。形の弁別が先にあ
 るのではないか。絵と文字と同時提示はどうか。漢字
 は手がかりが多いから覚えるのではないか。

561

立木:類似性のきめ方について点字の研究などを参
 考にし、パターンを考えたかどうか。杉村:弁別能力
 は文字の習得に従って獲得されるというが、その証拠
 は何か。むしろ逆のように思われる。——弁別と読み
 の関係について議論があつた。久保(奈教大):文字を
 読めない人々、よめる人について混合率をだす必要が
 ある。末丘:6文字の網を用いた理由とそのテストの
 仕方について

562

立木:手本の手がかりを減らしてみてもどうか。鈴
 木:なぜ読み書きを同時にしたのか。浜崎(発表者)
 読みだけだと意義が低い。読めるけれど書けない子ど
 もがいる。文字に対して、子どもは読むものだと思っ

ている。立木：読みは弁別であり、書きは再生であって異質なものである。末丘：子どもの発達を考えたかどうか。たとえば年齢を下げて、3才児、5才児、6才児としてみたらどうか。そしてもっときめの細かい実験をしてみたらどうか。私の娘は2才8か月で平仮名をひろい読みする。しかし書くことは全然だめだ。また実験してほしい。幼児に対する文字指導だけでなく、社会性についても考えてほしい。幼児教育全体の中で文字指導を考えてほしい。浜崎：当然である。我々の実験は4才7か月から5才7か月の幼児を対象にしたものである。松原（筑波大）：書くのは困難であり、目と手の運動の協応が必要である。そのような基礎的研究もしてほしい。——などのように、反対意見や注問が多くだされた。

566

国分、項目順を変えてもよいと教示して見たらどうか。反復を入れてみてはどうか。荒木：物語文を実験者が与えた方がその効果がはっきりしている。杉村：直後再生と一括再生を行なった理由について、荒木：一括再生の方が差がつくと思った。

563

吉田（九大）1人1人のフローチャートを書くことにどんな意味があるか、吉村：ごくかんたんなことから始まった。子どもの発言をそのまま書くのは容易なことだが、1人1人の子どもの考えを想像するのは大変困難なことである。フローチャートを書いてみると、子どもの考え方がはっきりしてくる。これを書くことにより、子どもの考え方をつかめたと思える。立木：加法と減法の方略は異なるのではないか、国分（新潟

大）：加算の方略と数概念の関係を調べてみてはどうか。山添：被験者の数への関心、性格などと方略の関係について、吉村からくり下りのある減法について4種類の方法の説明があったが、未だ心理学的な研究がないと報告された。

質疑・意見は文字・コトバの研究に集中し、数概念・加法に関するものは少なかった。

（杉村 健・岸 俊彦）

II ま と め

多鹿（566）の研究は人格検査のためのプロジェクト・メソッドを指向しており、今後の研究が期待される。

松倉、吉村、岸の研究は基礎的調査の段階にあり、学習指導に直接は結びついていない。調査の基準・方法に関するアプローチである。

伊藤・杉村・浜崎の研究は、研究過程に学習指導が含まれている。とはいえ、3者とも学習時間は、10～20分程度が1回であり、保育所や幼稚園の普通の学習に比較して、短時間であることが指摘されよう。限定された狭い条件の中での研究により、子どもの言語学習の全体がつかめるであろうか疑問である。

保育所・幼稚園と協同して、その学習の心理学にしなければ、生きた教育心理にはならないであろう。

こうした点からみると、浜崎の研究に対して、最も多くの批判があったが、この研究には心理学と指導法を結びつけようとする意欲が見られる。今後とも、この種の研究が盛んになることが望まれる。

（岸 俊彦）

学 習 (567～574)

- 座長 馬 場 雄 二・岩 脇 三 良
- 567 認知過程における相称性
室蘭工業大学 馬 場 雄 二
- 568 数概念形成に関する一研究
信州大学 土 井 捷 三
- 569 つくることとこわすこと
国立国語研究所 ○岩 田 純 一
京都大学 落 合 正 行
- 570 Retroactive Interference in Meaningful Verbal Learning
国際基督教大学 ○George
T. Milonas

- 〃 Kazutaka Furuhata
- 571 英語有意文の系列学習
中京大学 ○岩 脇 三 良
京都大学 梅 本 堯 夫
- 572 英語 LL Program における練習の Phase 数の効果
玉川大学 ○西 谷 さやか
東洋英和女学院高等部 小 池 久 子
- 573 英単語学習のはやさについて研究（その2）
—英語学習の教育心理学的研究（その3）—
東京教育大学 上 岡 国 夫